

解答例

適性検査Ⅰ

1 100点

〔問題1〕 20点

分かっていない点を明確に指てきできない状態や、「知ってるつもり」に気付けない状態にいるから。(46文字)

〔問題2〕 20点

ぎ問やすい測を生み出すために必要な、つながりのある知識を整理して身に付けること。(40文字)

〔問題3〕 60点

(省略)

適性検査Ⅱ

1 30点

〔問題1〕 15点

〔道順〕

スタート  
(エ) → キ → オ → イ → カ → ケ 倉庫

〔式と文章〕

$$5 + 7 \times 1.4 + 7 + 10 \times 1.4 + 13 = 48.8$$

ロボットの分速は12mなので、1m進むには、5秒かかる。ブロックを1個運んでいるときは7秒、ブロックを2個運んでいるときは10秒、ブロックを3個運んでいるときは13秒かかる。また、1.4m進むためには、1m進むときよりも時間は1.4倍かかる。わたしが考えた道順に合わせて、かかる時間をそれぞれたし合わせると、48.8秒になる。

〔問題2〕 15点

ヒント(え): 全ての電球の明かりが消えている状態で、

AとBとDのスイッチをおしたあと、  
明かりがついていたのは①と②の電球であった。

表5 太郎さんと花子さんがさらに書きこんだ表

|        | ①の電球 | ②の電球 | ③の電球 | ④の電球 |
|--------|------|------|------|------|
| Aのスイッチ | ×    | ○    | ○    | ×    |
| Bのスイッチ | ○    | ×    | ○    | ○    |
| Cのスイッチ | ×    | ○    | ○    | ○    |
| Dのスイッチ | ×    | ×    | ×    | ○    |
| Eのスイッチ | ○    | ○    | ○    | ×    |

2 30点

〔問題1〕 15点

(選んだ一つを○で囲みなさい。)

第2次産業

第3次産業

しゅう業者数は、1960年と比べて1990年は増加し、1990年と比べて2020年は減少している。

しゅう業者数の最も多い年れいそうは、1960年は15～24さい、1990年は35～44さい、2020年は45～54さいと変化している。

〔問題2〕 15点

(図2と図3から一つずつ選んで○で囲みなさい。)

図2 : ①

②

③

図3 : ④

⑤

⑥

〔農家の人たちの立場〕

共通する利点は、カフェ事業を始めたり、新しい観光ルートを提案したりして、来客数が増えて、売り上げが増加したことである。

〔農家以外の人たちの立場〕

消費者にとって共通する利点は、新しくできたカフェをおとずれたり、加工工場見学などの新しい観光ルートを体験したりして、新たなサービスを受けられるようになったことである。

3 40点

〔問題1〕 18点

(1) ウ

(2) 葉の面積を同じにしたときの葉についたままの水の量が多いか少ないかを比べ、水てきが葉とくっついている部分の大きさが大きい小さいかを比べることによって判断した。

〔問題2〕 22点

(1) 図3から黒色のインクがついた部分がより少ないので、すき間がより広いと考えられ、図4からおもりをのせるとよりちぢむので、厚みがある方向にもすき間がより広いと考えられる。つまり、あらゆる方向に、水が入ることができるすき間がより多いから。

(2) じょう発した水の量は、箱とシャツの合計の重さが軽くなった量からTシャツの重さが重くなった量を引くことによって求められる。キは、Tシャツによってきゅうしゅうされた水の量とじょう発した水の量のどちらも最も多いから。